

校外学習（第3学年）に寄せて

校長 寺井 進一郎

例年では見られない学校行事、第3学年での「校外学習」が実施されます。「新型コロナウイルス感染症」の猛威により、今、日本の学校の文化である「学校行事」がピンチに陥っています。国を挙げての緊急事態宣言を受けた臨時休業は6月まで続き、さらに、その後の私たちの学校生活にも影を落としました。授業の遅れ、マスク着用や手指の消毒、ソーシャル・ディスタンスを保つなどの生活上の制限、部活動の大会や学校行事の中止や延期、規模の縮小…。学校が受けたコロナ禍の影響を数えればきりがありません。

話は急に変わりますが、「学校の楽しさ」とは何でしょうか。授業を中心とした勉強だと感じている人もいれば、青春の情熱を傾ける部活動だという人もいるでしょう。色々ある学校の教育活動の中で、一際、輝きを放つものが学校行事です。学校行事は、普段、皆さんが送っている学校生活に変化や折り目を付け、活動する中で、仲間や先生方とふれあい、関わり合い、互いを高め合う作用があります。そして、その記憶は、大人になってからも、若かった時代のよき思い出として、皆さんの心の中に生き続けるのです。

話を戻します。ここまで3年生の皆さんには、そんな学校行事で「辛抱」をさせてしまいました。この校外学習も、このコロナ禍さえ無ければ、3年生のメインイベントである修学旅行のはずでした。しかし、学年の先生方はあきらめず、修学旅行の実施の可能性がある限り最後まで計画を立ててくれましたし、残念ながら中止が決まってからも、すぐに次の手を打つことを怠りませんでした。その成果が今回の校外学習なのです（先生方、ありがとうございました）。

この校外学習では、私たちの郷土・羽生市が誇る坂東太郎「利根川」に沿ってサイクリングで移動し、上流の利根大堰（行田市）、日本初の女医・荻野吟子資料館（熊谷市）、この辺りで唯一、昔ながらに残存している渡し船・赤岩渡船（～群馬県千代田町）などを巡ります。活動拠点は地元となりましたが、皆さんは、これまでの小学校から中学校にかけての生活科や社会科、総合的な学習の時間、特別活動などを通じて郷土について学んできました。義務教育の課程を修了し、卒業と同時に他の地域の高等学校などに進学する人の多い中学3年生にとっては、恐らく郷土学習の集大成となることでしょう。数年後には、大学生や社会人となって、地元を離れていく人も出てくることでしょう。そんな皆さんには、郷土で同級生（やがて同窓生となります）とともに過ごすこの一日を大切に大切にしてもらいたいと思っています。

私も羽生市民の一人です。子供の頃から、利根川沿いの自然豊かな景色・眺めが大好きでした。何歳になっても、その気持ちは変わらないと思います。

皆さんにも、郷土を忘れず、故郷を愛する人になってほしいと願っています。

よい校外学習にしましょう。

「赤城遠望」10F油彩

数年前の秋～冬、昭和橋付近でスケッチして描いてみた自身の作品です（利根川から見る山々が好きなんです）。

